



11月25日（金）校長講話

読書旬間～素敵な一冊との出会いを～

来週11月28日（月）～12月9日（金）までは読書旬間です。いつも以上に本に親しみ、素敵な一冊に出会えるといいなと思います。今朝の校長講話は読書旬間に向けた話をします。

それでは最初に読み聞かせをします。紹介する本は『ぼくを探しに』です。「エッ、自分たちは中学生なのに絵本なの?」と思った人もいるかもしれませんね。でも、日本を代表する評論家であり、ノンフィクション作家である柳田邦男さんはこう言っています。

「絵本は幼い子のため、絵を補って読ませるものだ、というのは誤った考えです。

絵本作家はいろいろなことを絵本の中に潜ませて表現しています。人が生きる上で大切なものは何かといった深いものを、人生経験や年齢が高まるにつれて読み取れるようになってくる。そういう可能性を秘めているのが絵本です。」

さて、皆さんはこの絵本からどんなことを受け取るでしょうか?読み聞かせを始めます。

読み聞かせ『ぼくを探しに』

皆さん、どうでしたか? きっとこの本から受け取ったことは人それぞれ違うだろうし、正解はないのだと思います。

それではこれから2つ話をします。1つ目は私の考える「読書の魅力」について、2つ目は南宮中の図書館に親んでもらうため「図書館クイズ」です。

まず、「読書の魅力」ですが、たくさんあると思いますが2つ紹介します。「その1:想像力が豊かになること」。例えば、テレビや動画はとてもわかりやすく内容が頭にすっと入ってきますが、登場人物の顔や周囲の景色などが映像や絵で映るため、自分でイメージする必要がありません。それに対し、本は自分の頭の中で登場人物や景色が作られます。文字を追いながら、自分の中で想像力が大きく展開していくのが読書の魅力です。同時に、人の気持ちを考える想像力も豊かになるのです。本には様々な登場人物が出てきますが、自分とは異なる考え方や行動に憧れたり、共感したり、「これは許せない」と受け入れられなかったりした経験はありませんか? この経験が、心を豊かにし、自分ではない立場で物事を考えられることにつながっていくのです。それゆえ読書をする「コミュニケーション能力も上がる」と言われます。

次に、「その2:生きるヒントが得られること」。皆さんも何かしら自分の好きなことがあって、「ここが困っているので何とかしたいな」と感じることもあるでしょう。例えば、サッカーが好きでもっとゴールを決めたいと思っている人が、直接プロのサッカー選手に会って質問できればいいのですが、そんな機会は非常に限られています。しかしサッカー選手の書いた本から練習方法や食事の内容、考え方、生き方など学ぶことは簡単にできます。あるいは、「自分はこのことで悩んでいる。でもどうしたらいいかわからない」という人もいるでしょう。そんな人も本から解決のヒントを得ることができます。こんな言葉を聞いたことがあります。「人類の歴史は長く、いろいろな人たちが生きてきた。今、あなたが悩んでいることは必ず誰かが悩み解決している。その人が書いた本からヒントをもらうことができる」。本の魅力は、その人がどんなに有名であろうとも、あるいはもう生きていない過去の人であろうとも、その人の書いた文章が解決のヒントを語りかけてきてくれることではないかと思います。読書はこれ以外にもたくさんの魅力に溢れています。

最後は「南宮中図書館クイズ」です。皆さんはどのくらいわかるでしょうか?答えはすべて、城石先生にお聞きした11月15日朝の時点のものです。

1 南宮中の図書館には本が何冊あるでしょう?

① 約 5000 冊 ②約 19000 冊 ③約 25000 冊

答え ②(19307 冊です)



2 本年度、もっとも本を借りているクラスは何年何組でしょう？ 1504 冊も借りています。

答え 1年1組

ちなみに全校で一番本を借りている人は1年生で、63 冊だそうです。

3 図書館廊下に城石先生からのメッセージがはられています。何という言葉が入るでしょう。

「いろいろな本を読むと 少しでも()が 広がります」

①世界 ②知識 ③仲間

答え ①(世界)

本年度、もっとも貸出数が多い本は、汐見夏衛さんの「ないものねだりの君に光の花束を」で 23 回です。他にも図書館にはこんなコーナーがありました(写真で紹介)。城石先生や図書委員の人たちは、全校の皆さんに本に興味をもってほしいと願い、とても一生懸命に活動してくれています。本当にいつもありがとうございます。

読書旬間中は図書館に足を運び、いろいろな本を読んで少しでも世界を広げ、自分にとって素敵な一冊に出会えることを期待しています。

人権感覚を磨く後期人権同和教育月間

10月24日(月)から11月25日(金)まで、後期人権同和教育月間が行われました。南宮中では学年ごとの計画に則って、以下のような題材を通して学習しました。

【1 学年】

自分の中に差別意識があることに気づく。「かわいそう」という感覚から、ともに生きていこうとする心情への高まり。

- ・障がい者に対する差別意識→福祉体験:外部講師による講演、車椅子、高齢者、アイマスク、点字、手話の体験
- ・資料「雪の日のできごと」
- ・人権教育の振り返り→作文



【2 学年】

部落史の見直しの視点で部落差別のおこりを理解する。被差別部落の人々が果たしてきた役割に重点を置き、近代起源説にとらわれず、差別を生むのは私たち人の心に原因があることに気づく。

- ・部落差別の起こり、近世の被差別部落の人たちの暮らし
- ・「誇りうる部落の歴史」「警備の仕事」村人さえ無事ならば
- ・人権教育の振り返り→作文

【3 学年】

人生の大切な場面で、それぞれの登場人物の生き方を考え、自分自身の生き方への問いかけをする。中学校3年間のまとめとして、差別解消に向けて、力強く明るい展望を持って自分の思いを作文に書く。

- ・結婚差別
- ・CD「手紙」岡林信康/DVD「私の歩んだ道」
- ・「今、光っていたい」
- ・人権教育3年間のまとめ→作文

【お知らせ】新型コロナウイルス感染症対策について

依然、高止まりの状況が続いています。引き続き感染防止対策へのご協力をお願いします。

- 健康チェックカードですが、今まで同様、各ご家庭での朝の健康観察や検温を確実に行ってから登校させていただきますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。なお、学校でのチェックの仕方やカードの中身については、現在検討を進めています。
- 給食の黙食については、1 クラスの人数が多いことから継続します。食事が済んだ生徒同士がマスクをつけて会話するなど、対応していきたいと思えます。